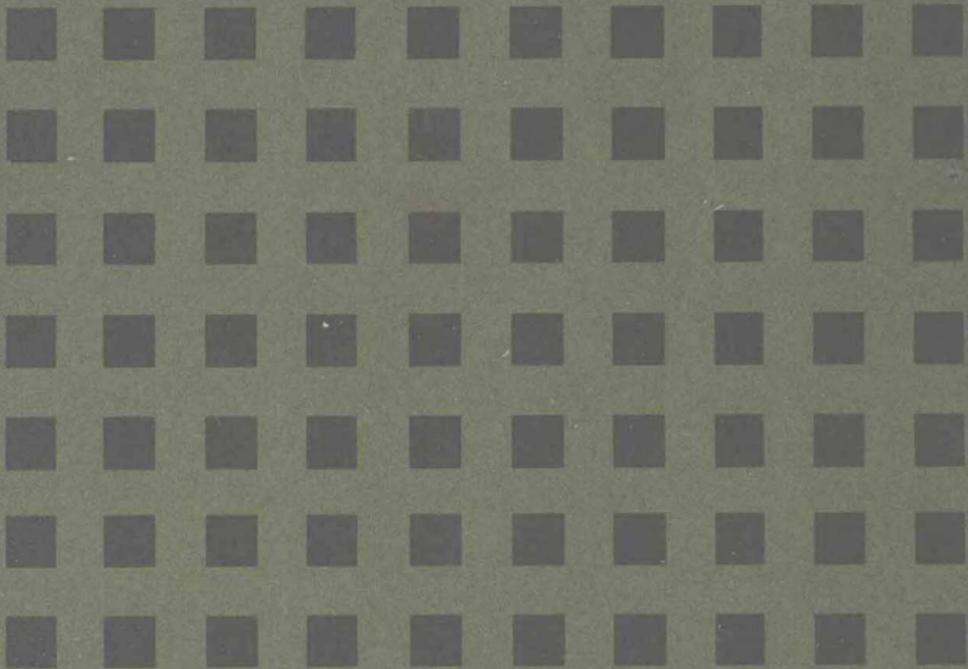


旺文社

漢和辞典

新版



編者 赤塚 忠 阿部吉雄

東大名誉教授・文博 東大名誉教授・文博

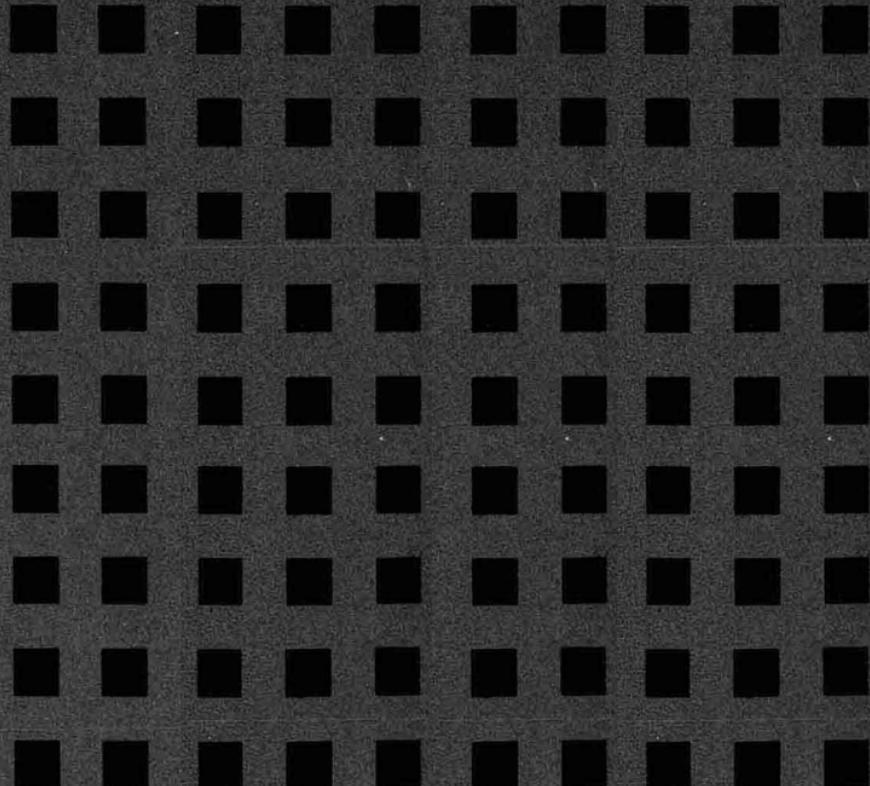
全国学校図書館協議会選定図書

日本図書館協会選定図書

旺文社

漢和辞典

新版



編者 赤塚 忠 阿部吉雄

旺文社の事業

K. 0

事業	放送	新聞	教材	事典	書籍	雑誌
旺学進模擬試験	大学受験	中小学校	学語学芸	教科別学習百科	語文庫・書・美術書・図鑑	高二年時
文芸学社	大学受験	中学	学習	大・中・小	学校典	高一時
児童文学	コ・積・驗	時時	カ・カ	事典	・児童書・	中二時
児童文学	立・実力	代代	セセ	大・事典	・美術書・	中二時
児童文学	ク・プ力	代代	ツツ	ジ・ユ・ニ・ア・エ・ボ・カ	・ス・ポ・	中二時
児童文学	ラ・ジオ	新新	トト	(工・ボ・カ)	・ソ・	中二時
賞ルント	ラ・ス	講座	聞聞	教科参考	書・参考	中二時
				参考	書	大小

〔関連団体〕

財団法人日本LL教育センター
日本学生会館

旺文社インターナショナル
財団法人日本英語教育協会

旺文社漢和辞典

1964年3月15日 初版発行
1974年11月1日 新訂版発行
1980年11月1日 新版発行
1981年 重版発行

編	者	赤	塚	忠
發行	者	阿立	澤	雄朗
印 刷 所		大日本印刷株式会社	吉節	
付物印刷所		開成印刷株式会社		
製本所		牧製作印刷株式会社		
製函所		清水印刷紙工株式会社		
編集協力		株式会社研文社		

発行所 株式会社 旺文社
162 東京都新宿区横寺町
(編集) 03-266-6356
電話 (販売) 03-266-6416

乱丁・落丁はお取りかえしますので、本社に直接お申し出ください。

7581 724-04 0724 09102

(許可なしに転載、複製することを禁じます) E

©旺文社 1980

Printed in Japan

編者のことば

私たちの言語活動にとって、漢字・漢語の知識は不可欠である。私たちの祖先は、漢字・漢語を中国から移入して、わが国語の表記を可能にし、その表現を豊富で多彩にするとともに、その文化を純化して、わが国の思想・文学・芸術・道徳制度など広範多面にわたる文化を培養し発展させてきた。また、漢文は、わが国の文化を形成している大きな柱の一つである。漢文を離れてわが国の文化を真に理解することも、たくましく進展させることもできないのである。古来、漢文を学ぶことは、日本人の必修の教養である。現在も、中学校の高学年ならびに高等学校で、漢文を国語の古典として学ぶことになつてゐるのは、このような認識に基づいてのことである。

近年、学習時間の縮小などによつて、中・高校の生徒にとり、漢文の学習は容易ではなくなつてきており、また、国語の表記法の移り変わりなど、辞書もなじみにくくなつてゐる。こういう事情の配慮のもとに、親しみやすさ、わかりやすさ、正確さを目標にして生まれた漢字・漢文の学習辞典が、『旺文社漢和辞典』であった。

『旺文社漢和辞典』は、一九六四年に誕生して以来、諸方面から多大の好評を得て、版を重ねてきた。一九七四年に一度改訂を行つたが、今回、戦後三十数年にわたり施行されてきた「当用漢字表」に代わつて「常用漢字表」が世に出るに際し、その新しい基準を採用するとともに、基本から再検討を加え、全面改訂を行つて、格段の充実を期することにした。現下の漢文学習の実情に鑑みるとともに、『旺文社漢和辞典』に寄せられた各方面の所見・要望を考慮し、またその後の漢字・漢文の研究成果を採用するとともに、従来の編集・改訂の諸経験の活用に務めたことはいふまでもない。

その結果、旧版に比較して、本辞典の改まつた点は次の通りである。(一)増ページと版面のワイド化により、親字約三百と熟語約三千を増補した。(二)部首説明を加え、親字に異体欄などを設けて、漢字の学習を体系的に、しかも親しみやすくした。(三)熟語の配列を改め、いつも引きやすくし、その音読・訓説の別を明瞭にした。(四)高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩を本文中に収録した。(五)用例の読みを大幅に増し格段にわかりやすくした。(六)巻末の索引をいつそう充実させた。以上のように、漢字・漢文の学習辞典として活用できるよう、すみずみまで十二分に編集上のくふうを徹底したつもりである。

本辞典の特長を総合して掲げれば、次の通りである。

- 一、高校生や、一般の大学生の漢字漢文学習に必要な親字約七千三百字、熟語約四万八千語を厳選収録した。
- 二、高校漢文教科書はもちろん、広く漢籍・日本古典その他の資料から親字・熟語を採録し、熟語は一般語句のほか、故事成語・有名詩句・地名・人名・作品名などを幅広く積極的に収録して、高校生・大学生の漢字漢文学習全般の用途に応するものとした。

一、漢字への親しみと字義の正しい理解に役立てるよう親字全部に解字欄を設け、また、異体欄で字体の区別を明確にした。

必要なものには漢字の古い形である甲骨文や金文・篆文を示し、また漢字の構成要素である意符および音符を平易に分析説明して、漢字の原義・転義を明らかにした。また、親字に関する本字・別体・古字・俗字を異体欄を設けて示した。

一、語法欄・同訓異義欄・参考欄・注意欄を設け、親字に関して種々の角度から解説を加えた。

漢文法上、注意を要する親字（助字類）については、語法欄で用法・意味などをくわしく解説した。また同訓異義欄を設けたほか、参考欄では同音符の字、注意欄では別字・誤字を扱うなど、漢字学習に必要な知識が広く得られるよう細かいくふうを施した。

一、有名漢詩の本文収録、用例の豊富な引用、さし絵・図版の多數挿入など効果的学習の配慮につとめた。

高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩八十三首を読みと口語訳を施して本文中に収録した。また、有名漢籍などから語例・文例を多く引用して出典を明示し、用例にはできるだけ読みを付した。そのほか、多くのさし絵・図版、付録に「漢文参考図」を掲載した。

一、漢字・漢文の基礎的知識と背景的知識を養う実用記事を数多く付録に収め、また各種索引を充実させて利用しやすくした。

付録には「漢字の知識」「熟語の知識」「漢文の読み方」「漢詩の知識」「中国の主な思想」「中国文学史年表」その他全十三項目にわたる記事を掲載した。また、助字・漢詩・故事成語・人名・書名の索引を設け利用の便を十分にはかった。

以上、本辞典が漢字・漢文の学習に貢献するとともに、旧版に増して各方面から愛用されることを切望してやまない。

本辞典の出版にあたっては、左記編集委員の方々にとくに多大のご尽力を賜った。わけても、小和田顯氏には編集上諸業務の統制に終始献身的な協力をいたいたことを銘記しておきたい。また、編集委員ともども執筆・校正あるいは資料提供など、ご協力をいたいたいた学友諸氏の名も左に記し、深甚の謝意を表する。

〔編集委員〕 遠藤哲夫 小和田 顯 加藤道理 新開高明 妹尾 勇 山田勝美
〔執筆・校正〕 泉 隆式 井上 正 上木永生 大竹修一 千葉千胤 津村正登 中川曠人 林茂夫（敬称略、五十音順）

最後に、この辞典の初版以来、編者として基礎を築かれ、たえず御指導を賜つた阿部吉雄先生が、先年御逝去なさつた。記して深く哀悼の意を表する次第である。

凡例

一、この辞典の構成と内容

親字

〈収録字数〉 約七、三〇〇字

(7) 常用漢字 (教育漢字を含む)

(8) 人名用漢字

(9) そのほか、高校・大学生、

一般社会人に必要と思われる漢字

熟語

〈収録語数〉 約四八、〇〇〇語

(7) 国文・漢文で用いられる、漢字を用いた主要な熟語、難読語など。

(8) 主要な故事熟語・成句・有名詩句など。

(9) 漢文學習上必要な人名・地名・書名・官職名・動植物名など。

(10) 漢詩: 高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩八十三首を、詩題

を見出し語として掲げ、読み・口語訳を施し本文中に収録。

索引

▼ 親字を検索するために次の三種類の索引を設けた。

- (1) 音訓索引 親字の音または訓がわかつているときに用いる。漢字の音訓を五十音順に配列したもの。(二〇ページ)
- (2) 総画索引 親字の音訓などがわからぬときに用いる。親字の総画数順に配列したもの。(二〇ページ)

凡例

▼ 漢字・漢文学習の便をはかつて次の四種類の索引を設けた。
(1) 部首索引 親字の部首がわかつているときに用いる。(表見返し)
(2) 助字索引 主要助字を画数・用法別に分けて示した。(二五五ページ)
(3) 漢詩索引 本文に收めてある漢詩を、詩題・起句・詩人名の三種に分けて、五十音順に配列した索引。(二五六ページ)
(4) 故事成語・成句索引 本文に收めてある故事成語・成句のうち、主要なものを五十音順に配列した索引。(二五七ページ)

- (1) 人名・書名索引 本文に收めてある主要な人名・書名を五十音順に配列した索引。(二五六ページ)
- (2) 配列した索引。(二五六ページ)
- (3) 故事成語・成句索引 本文に收めてある故事成語・成句のうち、主要なものを五十音順に配列した索引。(二五七ページ)
- (4) 人名・書名索引 本文に收めてある主要な人名・書名を五十音順に配列した索引。(二五六ページ)

付録

卷末に漢字・漢文の學習に必要な重要項目を収めた。

(1) 漢字の知識 (8) 中国簡化字表

(2) 熟語の知識 (9) 中国度量衡表

(3) 漢字の筆順 (10) 漢文参考図

(4) 漢文の読み方 (11) 中国歴史地図

(5) 漢詩の知識 (12) 五行・十二支・二十八宿

(6) 中国の主要思想 (13) 重要学統図

(7) 中国文学史年表

親字について

一、この辞典のきまり

配列

- (1) 原則として、「康熙字典」の例に従つて、部首を設け漢字を分類し、部首の画数順に配列した。ただし新字体となって、従来の部首では引きにくくなつた漢字については、所属部首の変更および、了・ク・ム・ム

(2) その他の新しい部首を設けてそこに移し、從来の所属部首も明示した。
 各部の漢字は、部首を除く画数順に分け、同画数内では現代かなづかいによる代表的な字音（国字の大半は字訓）により五十音順に配列した。

(3) 以上のほか、引くうえでの便宜を考えて、次のような検索用見出しを設けた。

- (ア) 常用漢字などの旧字体で、新字体との差がいちじるしいものは、読みとともに本見出し親字と解説のあるページ（漢数字）と段数（算用数字）を示した。

例 西11【醫】⁽¹⁾ イやす 「医」⁽²⁾⁽³⁾ の旧字体

- (イ) 異体字のうち、特に重要なものは、読みとともに本見出し親字と解説のあるページ・段数、およびその親字との関係を示した。

例 19【做】⁽¹⁾ サク 「作」⁽²⁾⁽³⁾ の旧字体

- (ウ) 所属部首をまちがえやすい漢字は、誤って引きやすい部首のことろにも見出しを掲げて読みを示し、本見出し親字と解説のあるページ・段数を示した。

例 3【字】⁽⁶⁾ ジ あざ → 翁3

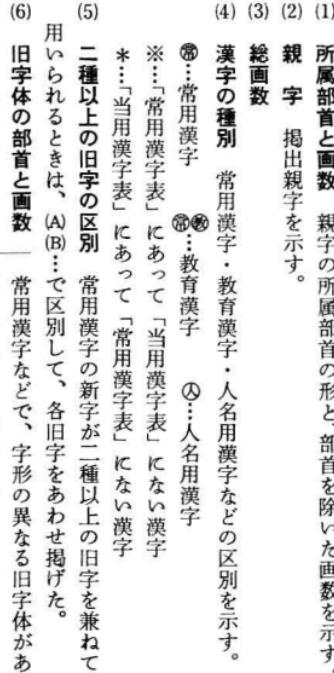
部首の標示と解説

各部のはじめに、その部の共通な構成要素として用いる部首の実際の形と名称（心^{こころ}・火^ひなど）を掲げ、その部首に所属する漢字の特長・他の部首との関係など、その部首に共通する事がらの概略を解説した。

親字の見出し

親字の見出しが、次のような体裁に従つて掲出した。

2



用いられるときは、(A)(B)…で区別して、各旧字体をあわせ掲げた。

(9) (8) 常用漢字表に示された音は、太字で示し、特殊な、または、用

法のせまい音には傍線をつけて示した。

(4) 「常用漢字表」にない音、また、常用漢字以外の漢字の音は細字で示した。

(5) 字音の配列は、「常用漢字表」の音や、広く通用する音を前に置き、字音の区別が「意味」と関連する場合には、(1)(2)…によって区別し、「意味」の(1)(2)…と対応するようにした。

(6) 字音には次の記号をつけて区別した。

❶ 慣用音 ❷ 漢音 ❸ 唐(宋)音

❹ 漢音 ❺ 唐(宋)音

(7)

なお、漢音・呉音が共通するものはこの区別を省いた。

(8)

字韻の区別 ————— (7) 各字音が所属する韻目と四声とを略号(付録「漢詩の知識」三三八～一七参照)で示した。

(9)

韻の区別が「意味」と関連する場合には、(1)(2)…によって区別し、「意味」の(1)(2)…と対応するようにした。

(10)

字訓 ————— (7) 各字音が所属する韻目と四声とを略号(付録「漢詩の知識」三三八～一七参照)で示した。

(11)

字韻 ————— (7) 各字音が所属する韻目と四声とを略号(付録「漢詩の知識」三三八～一七参照)で示した。

(12)

字訓 ————— (7) 字訓は、横線の下に平がなで現代かなづかいによって示した。

(13)

「常用漢字表」に示された訓は太字で示し、送りがなの部分を細字で示した。また、用法のせまい訓には傍線をつけて示した。

(14)

「常用漢字表」にない訓、また、常用漢字以外の漢字の訓は細字で示した。

(15)

字訓が活用語の場合は、活用語尾をハイフン(ー)で区別した。

(16)

異体字 ————— (7) 異体字と字形は異なるが字音も意味も同じで通用しあう文字のうち、親字から派生したり、成り立ちが類似だつたりするものを異体字とし、その主要なものを掲げて親字との関係を示した。

(17)

異体字の区別 ————— 本辞典では異体字の名称を次の基準で区別した。

(18)

本字：従来正字と考えられてきたもので、字の成り立ちから考えて本来の正しい字形と考えられるもの。

(1) 古字…おもに、周金文や、「説文解字」の古文・籀文・大篆などを楷書に改めたもの。

(2) 別体…「説文解字」の「或体」(同音・同義で形の異なる文字)、および、構成要素は異なるが仕組みは正しい異体字。

(3) 俗字…文字の成り立ちがわからないために、本字がくずれたり、類似の字形を混同して画一化したりしたもの、および、草書体に由来したり、簡単な筆写のために省略したりした略字など。

6
解字 (詳しくは付録「漢字の知識」二六八～一七参照)
漢字を正しく理解し、また親しみやすくするために、すべての漢字に解字欄を設けて、親字の成り立ち・構造などに関する解説を施した。

(1) 親字がその成り立ちの字形といちじるしく異なつたもの、その他必要と認めるものは、甲骨文字・金文・篆文などの古い字形を掲げた。

(2) 親字構成の基本原理を示すために、六書の象形・指事・会意・形声・仮借・転注に、象形指事と会意形声を加えた分類名を用いた。

(3) 次に、親字の構造を分析して原義を明らかにし、「ひいて(その意味が延長されて)」・または「転じて(転用されて)」・基本義や重要な意味を表したり、「借りて(借用されて)」他の意味に用いられたりする次第を説明し、意味展開の骨子を示した。

(4) 形声字の場合には、音符が表す語源的に共通な意味は、「(つよい意味→強^{キヨウ})」のように、「(ー)」内に基本義を示し、語源的に同系統で意味の近い他の文字を「↓」で示して例証とした。

6
意味
漢字・漢語の理解と使用に必要な意味を精選して掲げた。

(1) 字音・字韻による区別がある場合は、(1)(2)…を用いて区分し、意味・用法の相違の大小によって、(1)(2)…、(3)(4)…に分類して示した。

(2) 広く用いられる字訓は、漢字部分を太字で、送りがなの部分は細字で示し、活用語尾はハイフン(ー)で分けて区別した。歴史的なつなづけを示す。

かいのあるものは、その下に()で包んで示した。

(4) 固有名詞や専門用語など語の種類により、語義の頭に『地』『動』

【法】など記号をつけた。(ページ参照)

(5) 国語だけに用いられる特殊な意味・用法には、國の記号をつけて語

義の末尾に掲げた。

(6) 語義にはつとめてその親字に対する同意語、反対語・対応語を掲げ、次の記号で区別した。

++: 同意語
--: 反対語・対応語

ただし、①②…のいくつかに分かれた意味のすべてに対応するものは、その後に一度だけ次の形式で掲げた。

《=》
《↑ ↓》

(7) 意味欄の最後に、内括の項目を設けて、人名に用いる読みを示した。

注 意

字形が似ていて混同しやすいと思われる文字や、誤字を掲げた。

漢文法上、注意を要する親字(主として助字類)については、その用法・意味などについて文法的に詳細な解説を施した。

同訓異義

同じ訓読みであつて意味の異なる漢字の主要なものについて、それぞれの相違を明らかにした。解説箇所は、その読み方をする場合に最も一般的に用いられる親字のところに置き、他の文字では解説箇所を参照させた。

参 考

(1) 親字の特殊な用法、形の似通った漢字の記憶法。

平がな・片かなの起源。

(4) (3) (2) 同音の漢字による書きかえ字(昭和三十一年七月国語審議会報告)。
「常用漢字表」付表に示されている熟字訓。

その親字を音符(文字の音を表す部分)とする形声字。

その他、その親字について広く参考となる事がらを掲げた。

熱語について

1 配列

(1) 原則として字数の多少、音訓にかかわらず二字目の現代かなづかいによる読みの五十音順によつた。読みが同じ場合は、二字目の画数順とした。

(2) ある熟語に他の語句がついてできた派生語、および意味上からは派生語といえないものも、基本熟語と字体が同じものは、便宜上【】に入れてその熟語の次に全体の読みの五十音順で掲げた。

例 【一挙(舉)】キヨイ

【一挙(舉手)】イチフキウ

【太宰(春台臺)】タツイシノタケ

(3) 熟字訓・旧国名など、一、二字目の読みが区別できないもの、また区別しづらいものは熟語の最後に全体の読みの五十音順に掲げた。

例 【相輪】ソウル

【吹笛】スイドク

【太宰府】タツイフ

【吹毛】スキマツ

(4) 訓読する句、返読する語で派生語とならない熟語などは熟語の最後に【】に入れて、全体の読みの五十音順で掲げた。

例 【仁里】リジン

【仁人】ジンジン
【宅也】タツヤ

【賊】ジン
【仁者】ジンジ
【謂】タク

2 見出し

(1) 同一の親字で構成され、異体・通用などの関係にある別な文字を用いて同一の語を表す場合は、これを一語として扱い【】内に括し

て掲げた。掲載順は、常用の形を先に掲げた。

例 「人煙・人烟」^{ジン} 「愛・玩・愛・甄」^{アイ・ワニ}

- (2) 同一の親字で構成される同義の熟語は、基本となる熟語のもとに準見出し語として掲げた。

例 【寸刻】^{スン} わずかな時間。【寸時】^{スン}

- (3) 漢詩：高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩は、詩題を見出し語として掲げた。（三六六ページ「漢詩索引」参照）

3 字体・旧字体表記

- (1) 常用漢字の字体は、「常用漢字表」により、新字体といちじるしく字形が異なる漢字には、その旧字体を（ ）に入れて示した。ただし親字と同じ一字目の漢字（返って読む場合は二字目以下）には改めて旧字体を示さなかつた。また、三字以上の熟語で旧字体を示す漢字が二字以上続く場合は、語構成単位で一つの（ ）に包んで示した。

例 【主体體】^{シラフ} 【与党黨】^{トウカウ} 【易・寺】^{イ・ジ}

【触觸即発(即發)】^{タクタクセキハ}

- 人名用漢字のうち新字体で示されたものは新字体で掲げ、旧字体を（ ）に入れて示した。

例 【世・禄(祿)】^{セイ・ロク} 【妖・艶(艳)】^{ヨウ・エイ}

4 漢字記号 熟語見出しの漢字の上に次の記号をつけて種別を示した。

△：同音の漢字による書きかえの場合のもの

※書きかえについては「同音の漢字による書きかえ（昭和三十一

年七月国語審議会報告）によつた。

△：同音の漢字表にない漢字

例 【天・蓋】^{テン・ガイ} 【拳術】^{ケンジク} 【下克・剋(上)】^{ジヨク・ケイシヤウ}

5 よみがな

- (1) 熟語の下に、その読みを現代かなづかいで、音読みのものは片かな、訓読みのものは平がなで区別して示した。

凡 例

(2) 歴史的かなづかいのあるものは、現代かなづかいの下に（ ）で包んで、音読みのものは片かな、訓読みのものは平がなで区別して示した。

例 【一堂】^{イチダウ} 【水魚(之交)】^{スイニホ(キヤウ)}

- (3) 国訓、および国語読みは、読みがなの上に國の記号をつけた。

6 語 駅

- (1) 同一の熟語で読みの相違によって意味が異なる場合は、（①②…）の記号で区分し、同じ読みの中で意味が二つ以上ある場合は、（①②…）の記号、さらに細分するときは、（①②…）の記号で区分した。（六ページ参照）

- (2) 語の種類により語駅の頭に『人』『書』『地』『動』『植』『哲』…など

の記号をつけて語の種別を明示した。（六ページ参照）

用例・出典

語駅を明確にするために、高校漢文教科書・有名漢籍などからつとめて用例を引用し、その出典を明示した。

(7) 引用文は「 」で開み、その出典は「 」で包んで示した。

(1) 見出し語に相当する部分は原則として「——」で、返って読む場合は「—’—’」の形式で示した。

(2) 用例には、できるだけ読みを施し、特にむずかしいと思われる部分には（II）の形で簡訳を施した。

(3) 用例には、できるだけ読みを施し、特にむずかしいと思われる部分には（II）の形で簡訳を施した。

8 同意語、反対語・対応語

△：同意語
↓：反対語・対応語

熟語の意味のそれぞれに対する同意語、反対語・対応語がある場合は次の記号をつけて語駅の最後に掲げた。

また、①②…のいくつかに分かれた意味のすべてに対応するものは、その最後に一度だけ次の形で示した。

（II）
（↑ ↓）
（↔）

9 注意・参考

- 語駅の末尾に適宜注意参考欄を設けて、見出し熟語の使用上の注意事項を記入する。

この辞典に使った略号・記号

漢字記号

親字関係の記号

- ◎…教育漢字
◎…常用漢字
◎…人名用漢字
※…「常用漢字表」にあって、
「当用漢字表」にない漢字
＊…「当用漢字表」にあって、
「常用漢字表」にない漢字

- △…常音
△…異音
△…唐(宋)音
△…意味欄で、訓義が活用語の
場合、活用語尾の前に△を入れ
れ、その文語形を△に入れ
て示す

- 記号
◎…慣用音
◎…漢音
◎…唐(宋)音
△…意味欄で、一
字目の同じ熟語
△…読みの相違によって意味
も異なる場合、それぞれの読
みの頭につける

- II
△…見出し熟語と同義で、一
字目の同じ熟語
△…読みの相違によって意味
も異なる場合、それぞれの読
みの頭につける
△…逆熟語の始まる頭につける

- △…意味・訓義が①②…と分か
れるそのすべてに共通する
同意語、反対語・対応語
百科語の記号
〔人〕人名
〔地〕地名
〔書〕書名
〔仏〕仏教語
〔動〕動物名・動物学
〔植〕植物名・植物学
〔語〕語学
〔法〕法律
〔数〕数学
〔哲〕哲学
〔理〕物理学
〔医〕医学
〔詩〕漢詩

- △…字音・韻の相違によ
つて、訓義にちがいがあ
る場合それぞれの頭につ
けて対応させる
【】…訓読する句や、返つて読む
たは熟語

出典

- (1) 出典名は通用する名称を用い次のように略称した。
△…晏子△…春秋△…穀梁△…左伝△…公羊△…家語△…春秋公羊伝△…世說△…通鑑△…史記△…淮南子・原道△…韓非子・説難△…戰國策・秦△…戰國策・梁惠王△…呂覽△…呂氏春秋

- (4) 出典が詩文などの場合は、「作者名・題名」を示し、詩の場合は末尾に「一詩」と示した。ただし、題名に、詩・歌・吟・行・曲・賦・辭・句・詠などとある場合は、「一詩」を省いた。
(5) 詩文の題名が長い場合は、これを省略して△…韓愈・文△…白居易・詩△…のよう示した。

例【及】

- △…企及・言及・波及・普及

熟語の末尾に、親字が下についてできている熟語を△印をつけて掲げた。その配列は、全体の読みの五十音順、同じ読みの場合の一文字目の画数順とした。

△…白虎通△…白虎通義
△…呂覽△…呂氏春秋

このほか、四字以上の書名で略記しても誤解のおそれのないものは上記の要領で略記した。
△…「淮南子」「戰國策」など、三字よりなる書名は略さなかつた。
書名には、編名・章名などの細目もできるだけ掲げた。

例【及】

- △…淮南子・原道△…韓非子・説難△…戰國策・秦△…戰國策・梁惠王△…呂覽△…呂氏春秋

字音かなづかい表

▽この表は、その字音に属する漢字の一部を示したものである。
▽上方の太字は現代かなづかい、下方の「」は歴史的かなづかいを示す。
▽歴史的かなづかいが現代かなづかいと一致するものは省略した。

イ <small>(ヰ)</small>	畏胄韋惟尉帷惟偉	位 <small>(ヰ)</small> 回委威為
イキ <small>(ヰキ)</small>	達雜慰遺律	イ <small>(ヰ)</small> ン <small>(ヰ)</small> ン
イキ <small>(ヰキ)</small>	城	尹員院韻
エ <small>(ヰ)</small> ン	会回廻恵絵	エ <small>(ヰ)</small> ン
エイ <small>(ヰイ)</small>	慧懷衛穢懷	エイ <small>(ヰイ)</small>
エイ <small>(ヰイ)</small>	衛	エツ <small>(ヰツ)</small>
エツ <small>(ヰツ)</small>	曰越	エン <small>(ヰン)</small>
オウ <small>(ヰウ)</small>	円宛垣怨	苑袁援園猿遠
オウ <small>(ヰウ)</small>	汚於烏惡	オウ <small>(ヰウ)</small>
オク <small>(ヰク)</small>	凹央桜奥	ヲウ <small>(ヰウ)</small>
オク <small>(ヰク)</small>	押厭鶴	ヲウ <small>(ヰウ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	王汪往旺皇	オチ <small>(ヰチ)</small>
オン <small>(ヰン)</small>	越	オン <small>(ヰン)</small>
オク <small>(ヰク)</small>	翁屋	オク <small>(ヰク)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	鳳黃橫	オチ <small>(ヰチ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	翁	ヲウ <small>(ヰウ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	越	オチ <small>(ヰチ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	苑袁溫	オチ <small>(ヰチ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	化戈火瓜禾	カクワ <small>(ヰクワ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	花卦果和共華菓訛	ガクワ <small>(ヰクワ)</small>
オチ <small>(ヰチ)</small>	貨渦過禍靴課	カクワ <small>(ヰクワ)</small>
ガイ <small>(ヰイ)</small>	瓦画臥	ガイ <small>(ヰイ)</small>
カイ <small>(ヰイ)</small>	会回灰	カイ <small>(ヰイ)</small>
カク <small>(ヰク)</small>	月	カク <small>(ヰク)</small>
カク <small>(ヰク)</small>	宦完官	カク <small>(ヰク)</small>
カク <small>(ヰク)</small>	冠卷患貰換棺款	カク <small>(ヰク)</small>
カク <small>(ヰク)</small>	音勸寛償管閨歎緩	カク <small>(ヰク)</small>
カク <small>(ヰク)</small>	還館環觀	カク <small>(ヰク)</small>
ガン <small>(ヰン)</small>	丸元玩	ガン <small>(ヰン)</small>
ガン <small>(ヰン)</small>	頑阪願	ガン <small>(ヰン)</small>
キユウ <small>(ヰウ)</small>	九久仇	キユウ <small>(ヰウ)</small>
キユウ <small>(ヰウ)</small>	丘旧徒朽日求矣究	キユウ <small>(ヰウ)</small>
キユウ <small>(ヰウ)</small>	糾教球與鳩	キユウ <small>(ヰウ)</small>
キユウ <small>(ヰウ)</small>	急級笈給窮	キユウ <small>(ヰウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	牛	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	兄匡	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	向狂享京況香強経	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	鄉境競競響驚	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	叫校教農喬	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	矯橋矯快険峠	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	扶狹脅脇険煩	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	夾協怯険峠	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>	仰刑	キヨウ <small>(ヰヤウ)</small>
ギ <small>(ヰ)</small> ウ	堯曉	ギ <small>(ヰ)</small> ウ

コウ[カウ] 壱巧交向	ジヨウ[チャウ] 惕招囃
好江幸行坑抗孝更 享効幸行巷幸邦郊	上成 状城淨常情盛静壤 裏城攘讓
香校浩耕庚耗航降高 康港硬絞項較敲綱	【セウ】擾饒 【チャウ】丈杖定長
酵稿衡鋼講 【カフ】甲岬閣	貞娘場嬢鍊釀 【テウ】条嫋
【クワウ】広光宏恍 皇荒玆黃慌鉢	【テフ】帖暨 【ヨク[チヨク]】濁
【コフ】劫 萬郷傲豪濠	ジン[チン]陣塵頭 ズ[ヅ]國豆途頭
【ガフ】合業 【ゴフ】劫	スイ[スヰ]水出吹垂 炊帥粹袞推醉遂睡
シユウ[シウ] 収囚州 舟幸周洲祝秋魯曾	翠穂誰錘錐 ズイ[ズヰ]隨隋瑞蕊
修遇就愁酬醜 【シフ】拾執習溫集	ソウサウ 双争早壯 帝草莊倉搜桑東 掃曹爽窓創喪葬裝 想搔搗漕爭帶蒼遭 槽操煥雷驅藻 【サフ】插
揖菖蔓 【ショウ[シャウ]】柔獸蹂	ゾウ[ザウ] 造象像藏 【ザフ】雜 丑时宙
【ジフ】十拾渢 【チュウ】住重除 井正	

〔ハフ〕	飽裏繩
〔ホフ〕	法漢音
ボウ〔バウ〕	亡卯妄忙
坊妨紗防房防冒茅	
茆彭棒膨蕪誘	
茆旁紡耗茫望傍	
〔ボフ〕	乏
ミヨウ〔ミヤウ〕	明冥
〔メウ〕	妙苗
モウ〔マウ〕	亡毛妾孟
盲罔望猛網	
ユイ〔ユキ〕	唯遺
ユイ〔ユキ〕	又尤右
由有佑西油幽祐悠	
郵猶遊誘憂優	
〔イフ〕	邑悒揖
ヨウ〔エウ〕	天幼妖杏
要搖腰熏謳曜	
〔エフ〕	葉
リョウ〔リウ〕	永羊洋陽
楊様養	
リョウ〔リウ〕	柳流琉
留畠硫溜榴璫	
〔リフ〕	立笠粒
寥寮遠療瞭	
〔レフ〕	狛漁
冷良怜亮培梁涼量	
領諒靈糧	
〔レウ〕	了料寥聊僚
老勞牢郎	
〔ラウ〕	拉臘蠅
朗浪狼廊	

音

ア—あくび

▽この索引は、本辞典に収めたすべての漢字の音訓を現代かなづかによって五十音順に配列した。
かたかな見出しは音を、ひらがな見出しは訓を示す。同じ見出しの中は画数順に配列した。
▽漢字……き_{II}教育漢字表による読み方。キ_{II}教育漢字表にない読み方。
読み方。よ_{II}常用漢字で、常用漢字表にある読み方。ヨ_{II}常用漢字で、常用漢字表にない読み方。
人_{II}人名用漢字。
▽漢数字はページを示し、その下の算用数字(1~4)は、段数を示す。

あぶーイ

12	11	10
貽詒 菱 渭 渭 欵 椅 幃 帷 惟 尉 施 施 為 漢 施	ヨ モ ス モ ヨ モ モ モ モ モ モ モ モ モ	* 食 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃
12	11	10
貽詒 菱 渭 渭 欵 椅 幃 帷 惟 尉 施 施 為 漢 施	ヨ モ ス モ ヨ モ モ モ モ モ モ モ モ モ	* 食 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃
12	11	10
貽詒 菱 渭 渭 欵 椅 幃 帷 惟 尉 施 施 為 漢 施	ヨ モ ス モ ヨ モ モ モ モ モ モ モ モ モ	* 食 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃

イーいたる

21	18	17	16	15	14	13
餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽	ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ	上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離	謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂	緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼	喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧
21	18	17	16	15	14	13
餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽	ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ	上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離	謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂	緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼	喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧
21	18	17	16	15	14	13
餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽 餽	ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ ニ	上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離	謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂 謂	緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼 緼	喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧 喧

い	い	い	い	い	い	い
おり	おう	お	える	えぐも	え	う
廬	庵	庵	癡	家	き	う
四	三	一	一	舍	キ	井
九	六	四	三	宅	キ	猪
九	六	四	一	宅	キ	人
九	六	四	一	宅	キ	蘭
九	六	四	一	宅	キ	井

いが	いかす	いかだ	いか	いかん	いがん	いが
奈	嚇	瞞	嗔	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲
奈	嚇	瞞	恚	恚	恚	捲

いく	イク	いき	イキ	イ	イカんぞ
幾行	響	莫燒	奧郁	育	那
幾行	響	莫燒	奧郁	育	五〇三
几	行	莫燒	奧郁	育	三
几	行	莫燒	奧郁	育	二
几	行	莫燒	奧郁	育	一
几	行	莫燒	奧郁	育	〇

いざなう	いさか	いさきよ	いさか	いさお	いこい	いけ	い	いくぞ
聊些	聊些	潔	潔	功	性	池	軍	誘
公	二	四	三	一	三	六	一〇九	九八六
公	二	四	三	一	三	六	九	三五二
公	二	四	三	一	三	六	八	三五二
公	二	四	三	一	三	六	七	三五二
公	二	四	三	一	三	六	六	三五二

焉	惡	胡	曷	安	何	至	勇	誘
焉	惡	胡	曷	安	何	至	九	九八六
焉	惡	胡	曷	安	何	至	八	三五二
焉	惡	胡	曷	安	何	至	七	三五二
焉	惡	胡	曷	安	何	至	六	三五二
焉	惡	胡	曷	安	何	至	五	三五二
焉	惡	胡	曷	安	何	至	四	三五二

いたずら	いたずら	いたずら	いたずら	いたず	いた	いた	いた	いたむ
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴
顛	顛	顛	顛	徒	徒	徒	徒	戴

いたる								
いたる								
いたる								
いたる								
いたる								
いたる								
いたる								
いたる								
いたる								

いたわる—インチ

いたわる	いたわる	イチ	イチ
労	三三	四	三三
三三	4	4	4
23 18 16	15 13	12 11	8
鶴鑑	通	逸	逸
一夫	4	4	2
24	24	24	3
24	24	24	4
24	24	24	5
24	24	24	6
24	24	24	7
24	24	24	8
24	24	24	9
24	24	24	10
24	24	24	11
24	24	24	12
24	24	24	13
24	24	24	14
24	24	24	15
24	24	24	16
24	24	24	17
24	24	24	18
24	24	24	19
24	24	24	20
24	24	24	21
24	24	24	22
24	24	24	23
24	24	24	24
24	24	24	25
24	24	24	26
24	24	24	27
24	24	24	28
24	24	24	29
24	24	24	30
24	24	24	31
24	24	24	32
24	24	24	33
24	24	24	34
24	24	24	35
24	24	24	36
24	24	24	37
24	24	24	38
24	24	24	39
24	24	24	40
24	24	24	41
24	24	24	42
24	24	24	43
24	24	24	44
24	24	24	45
24	24	24	46
24	24	24	47
24	24	24	48
24	24	24	49
24	24	24	50
24	24	24	51
24	24	24	52
24	24	24	53
24	24	24	54
24	24	24	55
24	24	24	56
24	24	24	57
24	24	24	58
24	24	24	59
24	24	24	60
24	24	24	61
24	24	24	62
24	24	24	63
24	24	24	64
24	24	24	65
24	24	24	66
24	24	24	67
24	24	24	68
24	24	24	69
24	24	24	70
24	24	24	71
24	24	24	72
24	24	24	73
24	24	24	74
24	24	24	75
24	24	24	76
24	24	24	77
24	24	24	78
24	24	24	79
24	24	24	80
24	24	24	81
24	24	24	82
24	24	24	83
24	24	24	84
24	24	24	85
24	24	24	86
24	24	24	87
24	24	24	88
24	24	24	89
24	24	24	90
24	24	24	91
24	24	24	92
24	24	24	93
24	24	24	94
24	24	24	95
24	24	24	96
24	24	24	97
24	24	24	98
24	24	24	99
24	24	24	100
24	24	24	101
24	24	24	102
24	24	24	103
24	24	24	104
24	24	24	105
24	24	24	106
24	24	24	107
24	24	24	108
24	24	24	109
24	24	24	110
24	24	24	111
24	24	24	112
24	24	24	113
24	24	24	114
24	24	24	115
24	24	24	116
24	24	24	117
24	24	24	118
24	24	24	119
24	24	24	120
24	24	24	121
24	24	24	122
24	24	24	123
24	24	24	124
24	24	24	125
24	24	24	126
24	24	24	127
24	24	24	128
24	24	24	129
24	24	24	130
24	24	24	131
24	24	24	132
24	24	24	133
24	24	24	134
24	24	24	135
24	24	24	136
24	24	24	137
24	24	24	138
24	24	24	139
24	24	24	140
24	24	24	141
24	24	24	142
24	24	24	143
24	24	24	144
24	24	24	145
24	24	24	146
24	24	24	147
24	24	24	148
24	24	24	149
24	24	24	150
24	24	24	151
24	24	24	152
24	24	24	153
24	24	24	154
24	24	24	155
24	24	24	156
24	24	24	157
24	24	24	158
24	24	24	159
24	24	24	160
24	24	24	161
24	24	24	162
24	24	24	163
24	24	24	164
24	24	24	165
24	24	24	166
24	24	24	167
24	24	24	168
24	24	24	169
24	24	24	170
24	24	24	171
24	24	24	172
24	24	24	173
24	24	24	174
24	24	24	175
24	24	24	176
24	24	24	177
24	24	24	178
24	24	24	179
24	24	24	180
24	24	24	181
24	24	24	182
24	24	24	183
24	24	24	184
24	24	24	185
24	24	24	186
24	24	24	187
24	24	24	188
24	24	24	189
24	24	24	190
24	24	24	191
24	24	24	192
24	24	24	193
24	24	24	194
24	24	24	195
24	24	24	196
24	24	24	197
24	24	24	198
24	24	24	199
24	24	24	200
24	24	24	201
24	24	24	202
24	24	24	203
24	24	24	204
24	24	24	205
24	24	24	206
24	24	24	207
24	24	24	208
24	24	24	209
24	24	24	210
24	24	24	211
24	24	24	212
24	24	24	213
24	24	24	214
24	24	24	215
24	24	24	216
24	24	24	217
24	24	24	218
24	24	24	219
24	24	24	220
24	24	24	221
24	24	24	222
24	24	24	223
24	24	24	224
24	24	24	225
24	24	24	226
24	24	24	227
24	24	24	228
24	24	24	229
24	24	24	230
24	24	24	231
24	24	24	232
24	24	24	233
24	24	24	234
24	24	24	235
24	24	24	236
24	24	24	237
24	24	24	238
24	24	24	239
24	24	24	240
24	24	24	241
24	24	24	242
24	24	24	243
24	24	24	244
24	24	24	245
24	24	24	246
24	24	24	247
24	24	24	248
24	24	24	249
24	24	24	250
24	24	24	251
24	24	24	252
24	24	24	253
24	24	24	254
24	24	24	255
24	24	24	256
24	24	24	257
24	24	24	258
24	24	24	259
24	24	24	260
24	24	24	261
24	24	24	262
24	24	24	263
24	24	24	264
24	24	24	265
24	24	24	266
24	24	24	267
24	24	24	268
24	24	24	269
24	24	24	270
24	24	24	271
24	24	24	272
24	24	24	273
24	24	24	274
24	24	24	275
24	24	24	276
24	24	24	277
24	24	24	278
24	24	24	279
24	24	24	280
24	24	24	281
24	24	24	282
24	24	24	283
24	24	24	284
24	24	24	285
24	24	24	286
24	24	24	287
24	24	24	288
24	24	24	289
24	24	24	290
24	24	24	291
24	24	24	292
24	24	24	293
24	24	24	294
24	24	24	295
24	24	24	296
24	24	24	297
24	24	24	298
24	24	24	299
24	24	24	300
24	24	24	301
24	24	24	302
24	24	24	303
24	24	24	304
24	24	24	305
24	24	24	306
24	24	24	307
24	24	24	308
24	24	24	309
24	24	24	310
24	24	24	311
24	24	24	312
24	24	24	313
24	24	24	314
24	24	24	315
24	24	24	316
24	24	24	317
24	24	24	318
24	24	24	319
24	24	24	320
24	24	24	321
24	24	24	322
24	24	24	323
24	24	24	324
24	24	24	325
24	24	24	326
24	24	24	327
24	24	24	328
24	24	24	329
24	24	24	330
24	24	24	331
24	24	24	332
24	24	24	333
24	24	24	334
24	24	24	335
24	24	24	336
24	24	24	337
24	24	24	338
24	24	24	339
24	24	24	340
24	24	24	341
24	24	24	342
24	24	24	343
24	24	24	344
24	24	24	345
24	24	24	346
24	24	24	347
24	24	24	348
24	24	24	349
24	24	24	350
24	24	24	351
24	24	24	352
24	24	24	353
24	24	24	354
24	24	24	355
24	24	24	356
24	24	24	357
24	24	24	358
24	24	24	359
24	24	24	360
24	24	24	361
24	24	24	362
24	24	24	363
24	24	24	364
24	24	24	365</